

A f f e t t i m v s i c a l i



Kantaten für Palm- und Ostersonntag

一枝の主日と復活祭のカンターター

J. S. Bach

«Himmelskönig sei willkommen» BWV182

«Christ lag in Todesbanden» BWV4

G. Böhm

H. I. F. von Bieber

etc.

2015年 4月 10日 [金] 19:00 開演 [18:30 開場]

日本福音ルーテル東京教会 [新宿区大久保]

全席自由 前売り 3500 円 当日 4000 円

予約・お問合せ：affetti.mvsicali@hotmail.com [事務局]

チケット取り扱い：03-3952-5515 [東京古典楽器センター]



AFFETTI MVSICALI

Kantaten für Palm- und Ostersonntag

枝の主日と復活祭のカンタータ

「なんという深い鐘のうなり、なんという冴えた歌の音色、
お前たち騒ろな鐘の音は、もう復活祭の序開きの時刻を告げるのか…」

天上の歌ごえよ、なんのために強くまた優しく、この塵の中におれを求めてくるのか…
この歌の調べは子供の時から聞きなれているので、今もまたおれを生の中へ呼びもどしてしまう…

思い出は今やおれを少年の心にかえし、最後の厳粛な一歩からおれを引きもどしてしまった。
おお、なおも響きわたれ、甘美な天の歌声よ…」

[ゲーテ《ファウスト》第一部「夜」]
相良守峯訳 (岩波文庫)

真理の探究に疲れ果てた末、自らの手で命を絶とうとしたまさにその瞬間にファウストを
生の世界へと引きもどしたのは復活祭の夜明けを告げる教会の鐘の音でした。
復活節という生命の再生の季節には必ず思い出す美しい描写です。

私たちのアンサンブル Affetti mvscali の第二回演奏会は、
キリストの受難と復活をテーマとするドイツ・バロックの作品を聴いて頂きます。
《天の王よ、汝を迎えまつらん》BWV182 と《キリストは死の縄に縛められ》BWV4 という
若きバッハの受難と復活のカンタータ 2 曲に
バッハより一世代前の 3 人の作曲家たちの作品を配しました。

北ドイツのリュネブルクで活躍した G. Böhm (1661-1733) による、
復活祭のコラール“Christ lag in Todesbanden”に基づく力強いコラール・ファンタジー

ザルツブルクで活躍した H. J. F. von Biebert (1664-1704) の代表作《ロザリオのソナタ》より
最も極端なスコラダトゥーラ (変則チューニング) が求められる「復活 Auferstehung」

バッハのライプツィヒでの前任者 J. Kuhnau (1660-1722) による
受難モテット「わが魂は悲しみのあまり Tristis est anima mea」

弦楽器、オルガン、合唱のピッチは現在より約半音高い a'=465 のコーアトーンで
リコーダーは今日より約全音低いヴェルサイユ・ピッチで演奏し、
歌詞の日本語訳字幕を投影いたします。

300 年前に生きたドイツの人々のキリスト復活と春を寿ぐ想いを
皆様とともに味わうことができればと存じます。

藤原一弘

Affetti mvscali

Magister Capellae	藤原一弘
Cantus	神山直子 衣笠千恵子 富山みずえ
Altus	奥村泰憲 山下幸
Tenor	並木隆浩 吉田龍之助
Bassus	浜田広志 山形明朗
Orgel	大村千秋

Guest Musicians

Altus	上杉清仁
Bassus	渡辺祐介
Recorder	宇治川朝政
Violin	廣海史帆 本郷幸子
Viola	小林瑞葉 中島由布良
Cello	懸田貴嗣
Violone	永田由貴



日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14
tel 03-3209-5702
web <http://www.jelc-tokyo.org>

Affetti mvscali on the Web: <https://affettimvscali.wordpress.com>